※令和４年度以降入学生用

学校番号	106

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	（学）書法芸術	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

自由で主体的な表現を行うために、書道の専門的な学習を通じて、
書道に関する幅広い、見方・考え方を学び、多様で創造的な表現能力を磨く。

2　学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書体の違いを理解し、書風の違いを生む技法を理解し、身に付けるようにする。

(2) 意図に基づいて書体、書風を選択し、創造的に構想し、表現を工夫したり、書作品の意味や、価値を考え、書を味わい捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に、書の表現・鑑賞の幅広い活動に取り組み、感性を磨き、書を通して心豊かな生活や社旗を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解している。 ・書体の違いを理解し、書風の違いを生む技法を理解し、身に付けている。	・意図に基づいて書体、書風を選択し、創造的に構想し、表現を工夫している。 ・書作品の意味や、価値を考え、書を味わい捉えたりしている。	・主体的に、書の表現・鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。 ・感性を磨き、書を通して心豊かな生活や社旗を創造していく態度を養っている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	漢字の書	・臨書を通じて、書体の違いを理解する。 ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する。	a:書体の変遷に興味を持ち、書の表現の方法や形式、多様性について理解ししている。（知） a:古典の書体を、その特徴によって分類することができる。（鑑・知） a:書体の違いを理解し、書風の違いを生む技法を理解し、身に付けている。（技） b:意図に基づいて書体、書風を選択し、創造的に構想し、表現を工夫している。 行草書の字形・基礎的な運筆・用筆を理解し表現しようとしている。 b:諸作品の意味や、価値を考え、書を味わい捉えたりしている。（鑑） c:主体的に、書の表現・鑑賞の幅広い活動に取り組んでいる。 c:感性を磨き、書を通して心豊かな生活や社旗を創造していく態度を養っている。（鑑）	作品	プリント	振り返り 観察
	篆刻	・篆刻を構成するさまざまな要素、書体・書風や配字等による表現の効果を理解する。 ・篆刻の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図の応じた個性的な表現について構想し、工夫しながら表現する。	a:篆刻を構成するさまざまな要素、書体・書風や配字等による表現の効果を理解している。(知) a:線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深めている。(鑑・知) a:目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能、書体・書風、配字等による全体の構成の技能を身につけている。（技） b:篆刻の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫している。 b:作品の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって捉えたりしている。（鑑） c:主体的に、書の表現・鑑賞の幅広い活動に取り組んでいる。 c:感性を磨き、書を通して心豊かな生活や社旗を創造していく態度を養っている。(鑑)	作品	プリント	振り返り 観察

※令和４年度以降入学生用

2・3学期 3学期	漢字仮名交じりの書	・目的や用途、表現形式に応じた全体の構成と漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素を理解する。 ・感興や意図に応じた、漢字（楷書・行書・隷書・草書）と仮名（平仮名・片仮名）の調和等による、全体の構成を工夫しながら、表現する（創作）。	a:漢字仮名交じりの書を構成するさまざまな要素や、名筆や現代のさまざまな書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。（知） a:線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じりの書の特質とその歴史、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深めている。（鑑・知） a:目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能、漢字と仮名の調和等による全体の構成の技能を身につけている。（技） b:目的や用途、表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現、現代に生きる創造的な表現について構想し工夫している。 b:創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深く捉えたりしている。（鑑） c:主体的に漢字仮名交じりの書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。 c:主体的に漢字仮名交じりの書の創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（鑑）	作品	プリント	振り返り 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度